

森の煙突

木のすき間から見え隠れするキッチンハウス

上に突き抜けた煙突は、遠くからでも見え、キッチンの位置がわかる。

植物に囲まれたキッチンでピザ作り体験を楽しむ。

植栽の間からキッチンの様子が垣間見える。

南側の入口には車椅子でも利用しやすいようスロープを計画。

■建築概要
キッチンハウス
面積 屋根面積：96.50㎡
土間面積：98.30㎡

設計趣旨

沖縄県総合運動公園は遊具や広場、キャンプスペースが程よい森や芝生に囲まれており、訪れる人々はキャンプやピクニックの他にも公園内に点在する木の間や芝生の広場を歩き回ったり、散策をして自然を楽しんでいます。

その中で、オートキャンプエリア内の本炊事スペースは洗い物の他に、ピザ作りなどのイベントを楽しむ場所になっている。

訪れる人々が豊かな自然の中で料理を楽しめる森の散歩道の途中の様なキッチンハウスを提案します。

手法

キッチンハウスに「森の散歩道としての要素」を取り込む

周辺の既存植栽とキッチン空間をやわらかなカーブの丘で緩くわけすることで、炊事場としての機能を保ちながらも、周辺の芝生と連続した緑と抜け道としての要素を内部に取り込む。キッチンは、外との距離感を程よく保ちながら落ち着いて作業できる環境となる。外部からは、丘や木のすき間から内部の楽しげな雰囲気が垣間見え、奥が気になり先に進みたくなる。

ダイアグラム 各要素をレイヤーで重ね合わせる

人の溜まりや動線・機能などの各要素を、優先度が高い順に配置しレイヤーを重ね合わせることで、使いやすいキッチン空間を確保しつつ、施設内に自然を取り込む。

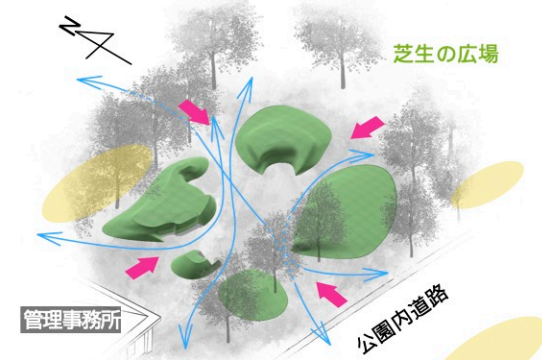
Layer1：周辺環境と動線から、丘を配置。

環境との調和：隣接する芝生との一体感を感じる。

動線の誘導：有機的な曲線は、やさしく内部へ誘導する。どこからでもアクセスしやすい。

ゆるい目隠し：程よく囲われたキッチンは、外部からは様子が見え隠れし気になり進みたくなる。

風よけの機能：海風をよける



通り抜けの導線：
キャンプスペース：

Layer2：ピザ作りイベントスペース

作業台：広いスペースを確保するため中央付近に計画し東側に寄せる。東側の広場と一体で使える。

Layer3：屋根を支える煙突

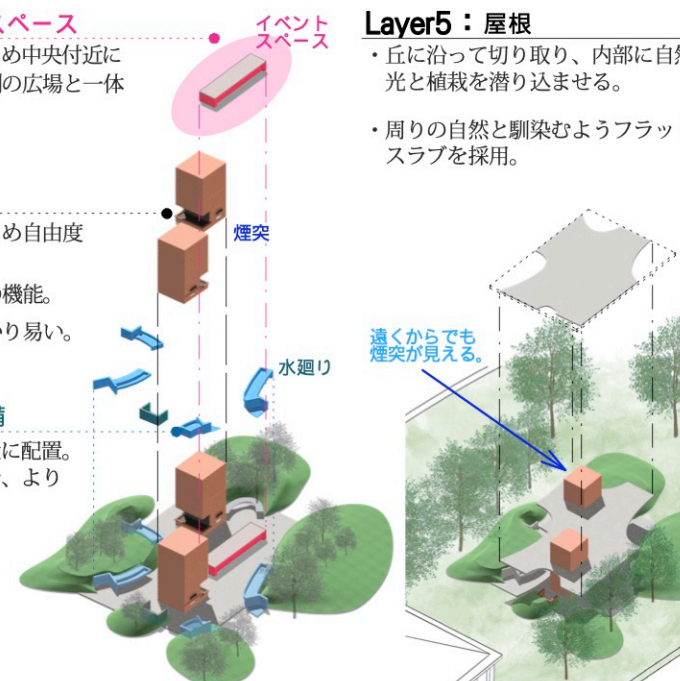
構造体：耐震壁をシンプルにまとめ自由度の高い平面計画とする。

キッチン：ピザ窯、かまど、煙突の機能。

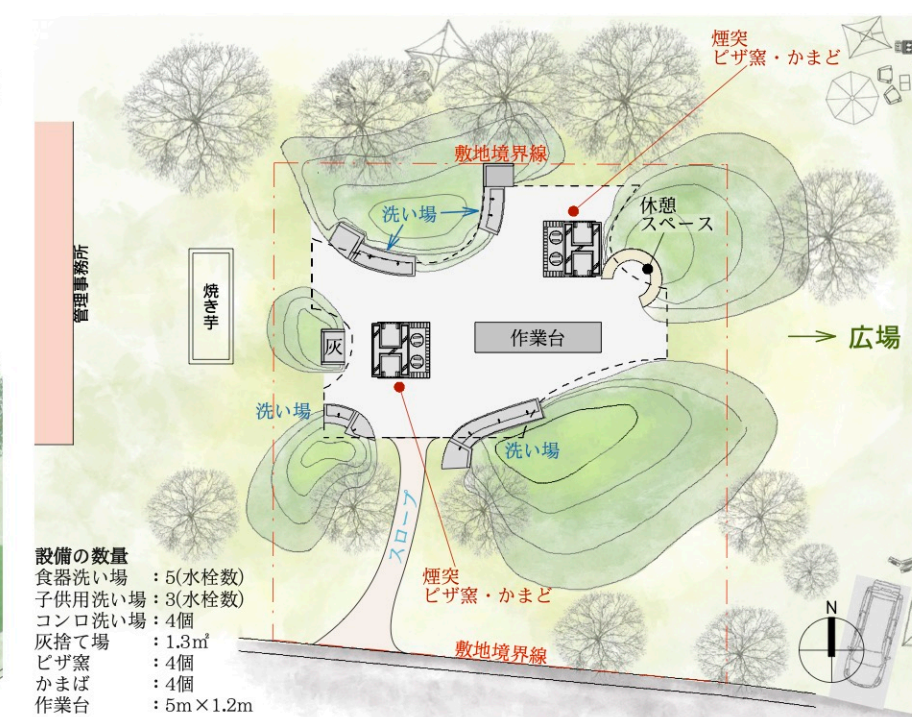
目印：遠くからでも位置が分かり易い。

Layer4：使用頻度の高い設備

洗い場：アクセスしやすい入口付近に配置。丘に沿って配置することで、より緑を楽しめる。



配置計画 (1/300)



森の散歩道としての機能

散歩の途中、休憩や散策を楽しんでいる様子

公園の散歩中、木々の間から煉瓦の建物で人が何か作業している様子がなんとなく垣間見える。丘のカーブに沿って進むにつれピザ窯や釜場、洗い場が見えてくる。丘と植物に囲まれたキッチンを通り抜けるだけでも非日常的な開放感を感じられ、通路から少し奥まったベンチで散歩の休憩もできる。



洗い場

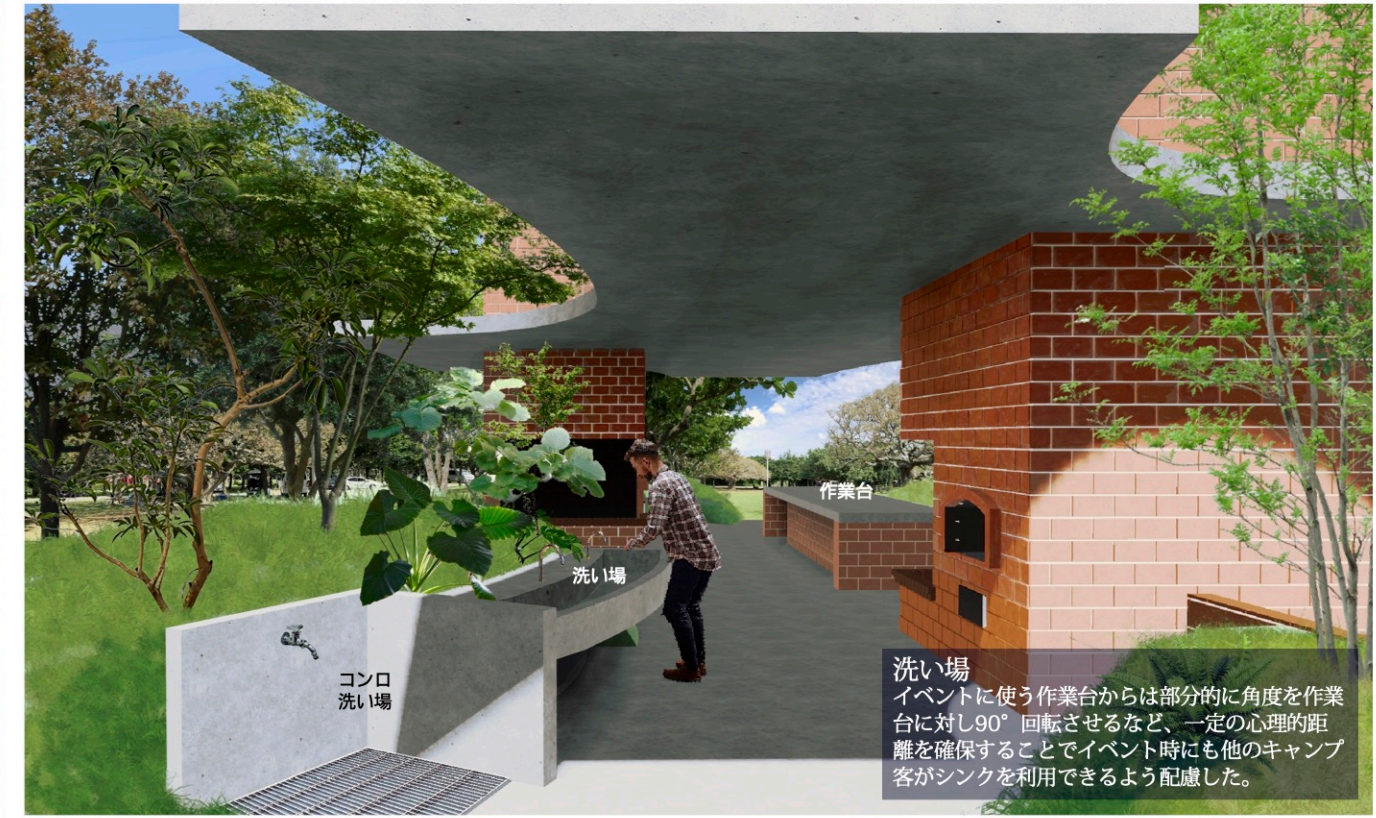
なだらかな丘が外部の視線と風を程よくカット

イベント用の作業台
: W5m D1.2m H0.7m

ベンチで休憩

子連れの家族が散策を楽しむ

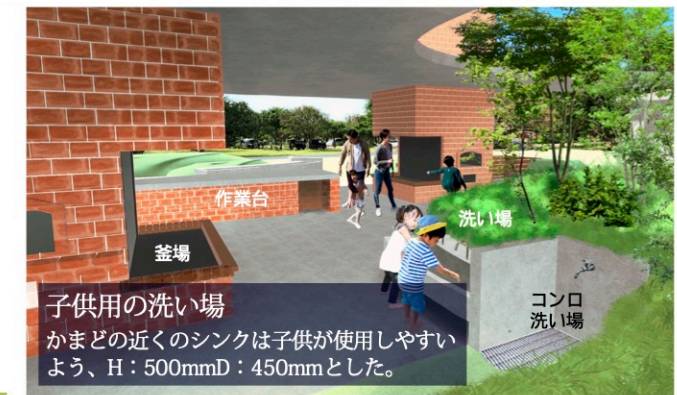
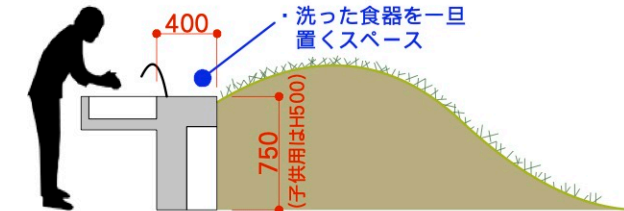
洗い場としての機能



洗い場

イベントに使う作業台からは部分的に角度を作業台に対し90°回転させるなど、一定の心理的距離を確保することでイベント時にも他のキャンプ客がシンクを利用できるよう配慮した。

洗い場は利用頻度が高いことから、アクセスしやすいよう、各方向からの入り口付近した位置に計画。シンクを丘の曲線に沿うように計画することで、より自然を楽しみながら作業ができる。洗い場の材質は、屋外であることを考え鉄筋コンクリートで作成し、シンクと植栽の間に洗った食器を置くスペースを確保した。



子供用の洗い場

かまどの近くのシンクは子供が使用しやすいよう、H: 500mm D: 450mmとした。

西側からの入口

管理事務所の裏手側に隣接する西口は、他の入口に比べ人通りの少ないことを想定し灰捨て場を配置。入口を少しだけ狭くすることで、森の小道感を演出する。



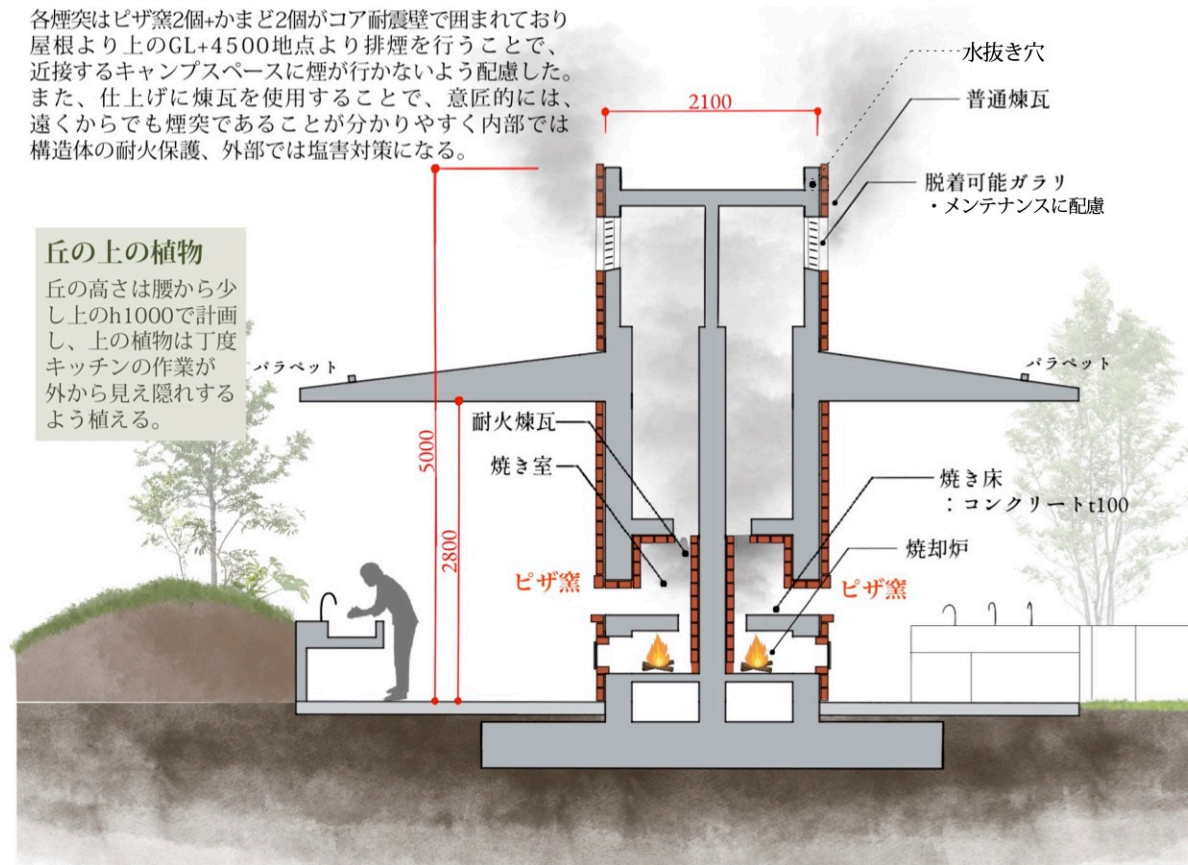
灰捨て場：
丘を覆う事で、外部からはあまり目立たないよう計画。

煙突周辺の断面図

各煙突はピザ窯2個+かまど2個がコア耐震壁で囲まれており屋根より上のGL+4500地点より排煙を行うことで、近接するキャンプスペースに煙が行かないよう配慮した。また、仕上げに煉瓦を使用することで、意匠的には遠くからでも煙突であることが分かりやすく内部では構造体の耐火保護、外部では塩害対策になる。

丘上の植物

丘の高さは腰から少し上のh1000で計画し、上の植物は丁度キッチンの作業が外から見え隠れするよう植える。

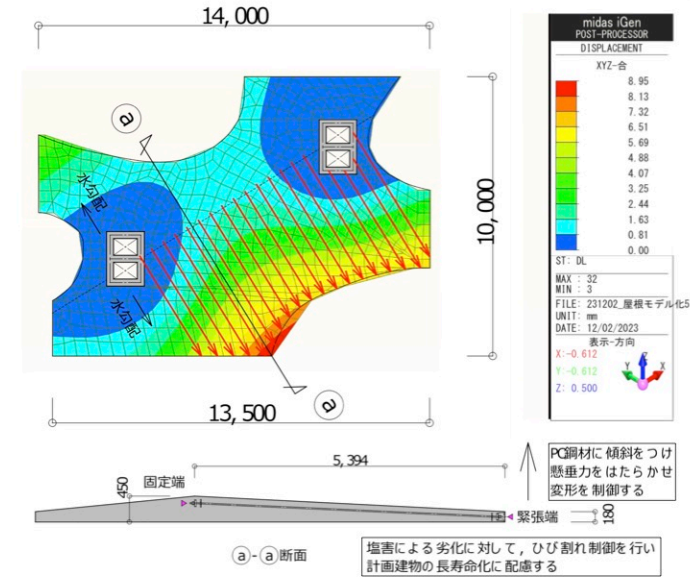


構造計画

キッチンが外部空間からシームレスに繋がるように計画した。具体的には、柱、梁型の表れない、コア耐震壁+アンボンドPCフラットプレート構造を採用した。

屋根が任意のスラブ形状であること、跳ね出しの寸法が大きく、たわみ性状を把握する必要があることからFEM解析を行った。FEM解析にはPCは非考慮とした。本解析により長期たわみの増大に対しては、アンボンドPCを導入することでクリープに対応する。

また、塩害に対してもひび割れ幅を0.2mm以下に制御し、躯体の長寿命化を図る。鉛直部材は窯場を兼用した耐震壁コアの2箇所のみとし、外部から視線が通るよう計画した。また、基礎も2箇所となるため基礎数量、掘削量など基礎工事費の大きな削減となる。屋根より下部に対するコスト管理により、屋根に使用したアンボンドPCの費用を相殺する。



■コスト削減

平面的な操作のみで屋根の形を決定すること、特殊な工法を使用しないことで施行性の向上を計った。構造面では、構造体をシンプルにまとめることで基礎数量を減らす。

■維持管理計画

メンテナンスのしやすさを考え、構造体以外でも木や金物は必要最小限に抑える。仕上げ材は他の建物との調和と維持管理のしやすさを踏まえ、瓦よりも剥がれにくい赤レンガを採用した。

■ユニバーサルデザイン

広い年齢層に対応できるように、設備の高さを調整した。シンクの高さを大人・子供用の2パターン計画し、H750の作業台には通常は収納しておける可動式の登り台(材質は劣化しにくいFRP)を計画した。

